

主題名 親切って温かい（内容項目 B 親切、思いやり）

教材名 「ぐみの木と小鳥」（出典元 学研教育みらい）

1 授業の実際

導入では、嵐の中飛んでいる小鳥の場面絵を提示し、どんな場面なのか想像するよう促した。子どもたちは、木が倒れそうな様子や横殴りの雨が降っている様子から、「ゴーゴーと大きな音がしていると思う」「台風みたいだね」と想像を広げた。そして、『どうしてそのような中小鳥は飛んでいるのか』という問いを子どもたちと共有した。

教材の範読の後、問いに対して子どもたちから出た考えは、

- ・りすさんが病気だからぐみの実を運んだ。
 - ・りすさんは病気だけどぐみの実をあげて食べさせたら元気を取り戻すかもしれないから。
- などであった。りすに元気になってもらいたい、という考えは共有できた。

しかし、嵐の中一人でいるりすの不安や苦しさを想像した発言がみられなかったため、『嵐がやんでから届けてもよかったのではないかな』とゆさぶった。これにより子どもたちからは、

- ・りすさんは風邪をひいていて、嵐のなか放っておいたらもっと風邪が悪くなってしまうよ。
- ・嵐のときは音が大きいから、病気で寝ているりすさんはもっと病気が悪くなりそう。
- ・台風で家が飛ばされてけがをするかもしれないね。

と、困っているりすの様子や心情を想像する温かい心について考えていった。

温かい心について教材を通して考えた子どもたちに対して、『みなさんは今まで、小鳥さんと同じように温かい心で親切をしたことがありますか』と問うた。子どもたちからは、「地域の人の掃除をお手伝いしました。」など多くの親切をした経験が語られた。その際、『どうしてしようと思ったの?』と問い返しを繰り返した。そうすることで「地域の人の腰が痛そうだったから」など、相手の様子や心情を想像する温かい心が自分にもあるということに気づくことができるようにした。

授業の終末に、『これからどのような親切をしていきたいか』についてノートにふりかえりを書いた。「これからも、とくに自分よりも小さい子、ケガをしている人や困っている人の気持ちを考え、その人がやりたいことを考えて、手伝ってあげたいと思った。」のように、困っている人に温かい心で接しようとする思いがみられた

2 今後に向けて

目に見える親切という行為に対し、温かい心は目には見えない。だからこそ今回の授業のように、行為がどのような心から生まれているのかに着目できるような発問、問い返しをすることで、子どもたちは目に見えない心に気づくことができる。そのようなすばらしい心が教材中の人物だけでなく自分自身にもあるということに気づくことができる道徳授業を目指したい。そのためには、教材と自己との関連付けが重要である。今回の授業では、「教材と同じようなことが自分にもあるか」と直接的に問い、温かい心の自覚化をねらった。しかし、直接的に問わなくとも、子どもたちは教材の人物の心を考える際、自分の経験や気持ちと関連付けながら話す姿がみられた。子どもの意識をつなぐことを大切に、子どもたちが自然と自分の心のすばらしさを自覚できる授業を目指したい。